

令和7年度 青梅市立第三中学校 学校評価シート

<学校経営方針の重点> 自分と人類の幸福創造する人材の育成の視点 (Agency 教育【OECD LearningCompass2030】) に立って三中教育目標に迫る。  
 ●本校の教育目標の実現： 1 学ぶ 2 (個人と自分を) 鍛える 3 思いやる

●評価基準 90%以上達成A、 70%以上達成B、 50%以上達成C、 50%未満Dとする。  
 ●自己評価方法 ※保護者及び生徒アンケートも加味し、評価する。(教員50%、保護者25%、生徒25%)

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	自己評価達成率%	分析結果	学校関係者 (CS) 評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
						評価	コメント	
学ぶ	Agency 教育に基づく、授業改革の推進と、家庭学習習慣の定着	●【学習指導力の向上】教科の授業等で、生徒が自立した学びの指導ができる教師 ●家庭学習に取り組む生徒の増加	①研究主題「学ぶ意欲を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを一体化した授業の創造」に基づき校内研究を進める。 (各学年研究授業実施)【教師】	B 72.5%	新しい研究主題に基づく研究授業を各学年で1名選出し学年会を母体に進めることができた。「学ぶ意欲の引き出し」および「個別最適な学び」については更に工夫を高める必要がある。	B	研究授業を9月4日に実施。教員一人一人の能力向上に向けた研修を受講して欲しいと思います。生徒の自己評価は、80%と高いのですが、保護者の評価が、67.5%と低い数字が出ているのは、生徒の学ぶ意欲を保護者が感じ取れない状況と判断します。保護者への情報周知の検討が必要かもしれません。研究主題に取組み状況を直接確認できていないので、学校評価の通りとします。努力評価はBで良いと思うが、成果は未達と思われる。	学習方略の指導も次期学習指導要領で取沙汰され、自立した学びの指導が喫緊の課題となっている。これに近づける授業力の向上が今後も一層問われるので、校内研究等を通して同授業力を高めていく。併せて保護者への情報周知を行う。
			②日常の教科授業で生徒が自立した学び、即ち上記研究主題を基づく授業を実践する。 (授業割合30%以上)【教師】	B 75.0%	教員の評価では70%の達成率でBの下限值であり、日々の授業実践では、今後も改善努力が必要である。管理職授業観察等を通じて①の研究主題に基づく授業は道半ばである。	B	教員の評価が、生徒・保護者の中で最も低い。教員の評価が低いのに生徒の評価が高いのはどういう意味があるのかを分析する必要がありそうです。生徒評価が、82.5%と高い数値が出ているのに比較して、教員評価が70%と低い数値が出ていることを考慮しますと、教員のみでの対応の難しさを感じているのではないかと推測いたします。外部の力を活用することも、検討が必要かもしれません。70%の達成率をもっと高め、学校の学習効率を高めてほしい。生徒の自立した学びは成果に直結するのではないだろうか。自己評価を甘くすることなく、努力していただきたい。	同上
			③ICTの活用：電子黒板、タブレットパソコン等の使用の日常化を図る。 (受験5教科は週2回以上、実技教科週1回以上)【教師】	B 77.5%	教員の評価は80%に達しており全体としてはAには達していないものの高い評価となっている。しかし、教員個人差大きくまた思考力を深めるとされる共有機能の駆使に課題が見られる。	B	ICT研修会が1回実施されているようですが、個人差が大きいのは問題ありそうです。研修会を増やす必要があるかも知れません。教員評価が80%、生徒の自己評価が82.5%と高い数値が出ていることは、大きな効果が表れていると考えます。教員間で個人差が大きいとの判断ですので、今後も全体の底上げを図るべく、教員間での知識向上交流の継続を期待いたします。ICTの活用で学力は向上できたのでしょうか？ツールの活用が進んでいるようだが、成果には必ずしも結びついていないと思われる。より効果的な活用を期待する。	引き続き週ごとの教員の数値目標を設定するが、実技教科では達成困難な場合が認められるので弾力的な扱いにする。また、教員のスキルに個人差が大きいので、引き続きICT支援員を活用した研修を行ったり、教員が積極的にICT支援員からの支援を受けたりすることを推進していく。
			④生徒に三中伝統の自学ノート及び三中授業外学習管理シートを活用して、家庭学習等の週日平均が1年は1.5h、2・3年は2h以上を目指す。 【生徒】	C 55.0%	自学ノートの評価は生徒が最も高く67.5%であり、最も評価が低いのは教員で55%である。全国学力等調査結果から、日々2h以上の学習時間は全国学力等調査結果から19.1%と、都平均38.5%より約半分にとどまる。	C	教員の評価がかなり厳しいです。教員の皆さんはしっかり意識をもって指導していると思いますが、思うような結果が出ないのは地域性もあると思います。家庭学習に取り組む習慣の定着は、保護者の理解が重要で保護者へのアプローチ方法が今後の課題だと思います。家庭での自主学習である「自学ノート」については、教員評価が、50%と非常に低く、保護者評価も、57.5%と低い状況です。生徒にとっては、コツコツと自ら努力することは非常に根気と忍耐が必要な行動ですので、努力する事の重要性について事例等を含めての生徒指導が必要と判断します。都平均の38.5%に近づけるよう、努力願います。具体的な目標となると、自己評価結果が厳しくなる。良い成果のためには良いプロセスが必要だと改めて考える好機会。	家庭学習時間の確保が難しく目標とする学習時間達成が余りにも程遠い状況があるので、自学ノートを朝学習に取り込むとともに、家庭学習時間のハードルを下げ、目標を達成しやすくする環境を整備する。
個と集団を鍛える	Agency 教育に基づき、自分と皆の幸福を共に創造する。	●青梅学の充実 ●リーダー生徒を育成し、同生徒及びフォロー生徒が共に活躍する学校 ●早期の特別支援教育等の推進	⑤3年間の青梅学を通して理想とする青梅を多角的・多面的に探究することにより幸福な日本・世界を創造する。	B 70.0%	集計日12/1時点において、2年東京校外学習や3年青梅学が3学期に行うことになっており、正確に評価しにくい課題がある。 (教員評価67.5%)	B	地元を愛する気持ちを醸成させるには、まずは地元を知ることだと思います。地元を知る青梅学の充実はとても重要だと思いますので、積極的に推進してほしいです。教員評価が低い要素として、目標とする学習が、3学期に実施との事で結果が判断できない状況での評価点は理解いたしました。プロセス重視の目標にも思えるが、教員評価が低いのは集計のタイミングによるものだろうか。	多角的・多面的な青梅学を引き続き推進する。学校評価計画の前倒しは難しく、また地域調査の日程も、過密化している総合的な学習の時間の年間指導計画の調整が困難であることから、評価形式を改める。
			⑥自治能力と自己決定・責任能力を高める学校行事(体育祭、合唱祭、宿泊行事、校外学習)、生徒会活動等を行う。	B 77.5%	生徒の評価は高く82.5%である。体育祭の開催が雨天で危ぶまれたが、できたのが良かった。特に体育祭、合唱祭を通じてリーダーも一般生徒も成長の跡があった。	B	もっと評価が高くて良いと思います。生徒評価が82.5%と高いのは、各種学校行事を自分達では努力してやりきったとの思いがあるのではないかと推察します。教員及び保護者の方々も、生徒の努力に好感を持っているのではないかと判断いたします。生徒の自己決定・責任能力を高めるよう、願います。努力実績としても各イベントをやり遂げているし、合唱祭など自治能力の成長が確認できたことはよかったです。	自治能力と自己決定・責任能力を高める学校行事(体育祭、合唱祭、宿泊行事、校外学習)、生徒会活動等をリーダー生徒の下、生徒が中心となって進めていく行事等を引き続き行うとともに一層強化していく。
			⑦3年間を見通したキャリア教育等(1年職業調べ、2年職場体験、3年上級学校等の選択含む)	B 75.0%	1年職業調べは3学期となっているため教員の評価はやや低い(70%)が、生徒は82.5%とキャリア教育を実感している傾向にある。	B	キャリア教育は生徒たちも必要性を強く感じているようです。評価点としては高い数字を示していると思われますので、好感をもてる自己評価と判断いたします。生徒評価が、82.5%と高いのは、職場体験等の学校内では経験できない体験を実践できたことが高評価となっていることは非常に良いことと思われます。集計タイミングの影響を受けてはいるものの、評価Bは良かった。	3年間を見通したキャリア教育等(1年職業調べ、2年職場体験、3年上級学校等の選択含む)を引き続き行うとともに一層強化していく。
			⑧特別支援教育について理解し、生徒の困り感を和らげ、生徒、保護者との共通理解の下、適切に支援する。 (校内委員会や特別支援教室拠点校としての充実)	B 75.0%	教員・保護者共に70%評価であるが生徒は82.5%と高い。生活指導の困難さを抱えている生徒の傾向の1つに特別支援教育につなげられないという課題が認められる。今後は校内委員会を基軸にした戦略的な接続が必要である。	B	課題がはっきりしているのであれば、具体的に落とし込んで実行し、教員の評価がもっと上がるようにしてほしいと思います。毎週の校内委員会の開催や、特別支援教室入室等の働きかけを評価いたします。今後も、継続実施を宜しく願います。生徒、保護者との理解を深めるよう、願います。	特別支援教育推進マニュアルを作成し、どの教員も統一かつステップアップできる面談が進められるよう改善を図る。また、巡回心理士の巡回だけでなく、同拠点校の強みを生かし、巡回教員による巡回を創設する。

思 い や る	Agency 教育に基づき、VUCA & Diversity & Inclusion 時代に生きる力を育成する。	●生徒が主体となった校則の点検と見直し ●いじめ重大事態、特に不登校にさせない、組織行動に基づく初期対応の充実 ●長期欠席生徒や不安を抱えている生徒への支援の充実	⑨校則ビジョンを制定し、生徒会が主体となった校則の点検・見直しのルーチン化を図る。現行及び未来の校則に関心をもたせるとともに生徒の参画意欲を引き出す。	<b>B</b> 70.0%	集計日12/1時点において、校則改定に関する生徒総会が開催されていないこともあり世教員の評価は67.5に留まっているが生徒の評価は80%に達する。改定への緊急性の高い校則は、生徒総会議決を経ることができた。	<b>B</b>	生徒の参画は良いと思います。 校則点検・見直し委員会を、(校長先生・生活主任・生徒会担当教員・生徒会役員生徒)の幅広い方々を交えて話し合いを行った事は、非常によいことと判断いたします。 今後も継続を宜しく願っています。 達成率は低めのBだが、一定の成果は出ていると感じる。	制定した校則ビジョンに基づき、生徒会が主体となった校則の点検・見直しを引き続き進める。この過程を通じて生徒の遵法精神も高めていく。
			⑩いじめ・暴力・自死ゼロを目指し、命や環境の大切さを実感する教育を推進する。(ボランティア活動、セーフティ教室、生徒会いじめゼロ運動、生命尊重をテーマにした道徳授業地区公開講座等の実施)	<b>B</b> 75.0% ⇒ <b>D</b>	努力指標としては額面通り、高い達成率(75%)である。その理由として生徒ボランティア活動の推進、道徳授業地区公開講座(生命尊重)7/5、薬物乱用防止教育7/15、生徒会いじめゼロ運動5月の実施があげられるが、校内暴力・破壊行為が絶えなかったことから、教育目標の「思いやる」には程遠い状況である。従ってD評価とした。	<b>C</b>	生徒の地域ボランティア活動を積極的に推進したことは、大いに評価できると思います。また、校内暴力などにおいても、学校として目をつむることなく真正面から問題化したことは、評価されても良いと思います。 学校内外での諸問題について、解決ができていない部分がありますが、校長先生はじめ、教員の方々や、関係者の方々が問題から目をそらすことなく、真摯に対応されておられる、お姿を拝見しています。 今後も困難な問題が多数ありますが、ご対応を宜しく願い申し上げます。 生徒・保護者・学校の関わりをもっと増やしてもらいたい。 評価が難しい。大きな努力を続けていると思われるが、成果には遠く及ばないのが残念。地域としてもさらに協力したい。	学校が荒れない工夫として、新1年生から発達支持的・課題予防的生徒指導を充実させ、暴力・破壊・迷惑行為等の縮減化を実現していく。また、地域と連携した生徒指導も必要に応じて行う。更に警察との連携を強化し学校の秩序維持を守る。
			⑪長期欠席生徒に三中間シートに基づく支援体制を構築する。1週間1回の家庭訪問、リモート授業、別室支援等を行う。他機関との連携も強化し、支援を継続する。不登校対応巡回教員、家庭と子供の支援員、SCと連携・シェアを図る。	<b>B</b> 72.5%	教員の評価は72.5%だったが、生徒・保護者共に70%で若干評価が低い。今年度からリモート授業ができるようになり、実際に支援を受ける生徒がいて前進できた。別室支援やふれあい学級につながる生徒が増えて学習支援等が強化できた。しかし、家庭訪問や学習支援など一部に不十分な点も見られるので更なる工夫・改善が必要である。	<b>B</b>	課題として「更なる工夫・改善が必要」として分析されていますが、学校だけの対応では限界があるので、あらゆる角度から協力していただける他機関をもっと利用すべきだと思います。 長期欠席生徒の支援体制の構築は、時間と労力や地道な努力の積み重ねの根気の必要な作業ですし、成果を上げることは非常に困難を要すると思われます。 外部の力を利用するなどの色々な手段の導入を検討して、教員の方々の負担が軽減出来て、より良い方向に向かっていけることを願っています。 これも難しいテーマと思われる。三中独自シートのPDCA管理等強化して、成果に結びつけることを期待したい。	長期欠席生徒に三中間シートに基づく支援体制を継続する。1週間1回の家庭訪問・リモート面談、リモート授業、別室支援等を行う。他機関(ふれあい学級、登校支援室)との連携も強化し、支援を継続する。不登校対応巡回教員、家庭と子供の支援員、SCと連携・シェアを図る。
			⑫生徒の不安や期待を受け止め支援したり、生活指導等において生徒の意見表明権を保障したりする場面を日常化する。	<b>B</b> 77.5%	生徒の評価が高く80%であるのに対し、保護者は70%と低くなる。教員は77.5%であった。本項目は今年度から強化しているところなので、意識的な継続が求められる。	<b>B</b>	子どもの権利条約の日本での批准を受け、特に意見表明権を注視した取組は評価できると思います。 場合によっては、地域の民生児童委員に協力依頼することをお勧めします。 生徒評価が、80%と高評価な点は、良いことと思います。 先生方の日頃の努力に感謝申し上げます。 生徒評価が良かったということは、成果が認められたということではないだろうか。	生徒の不安や期待を受け止め支援したり、生活指導等において生徒の意見表明権を保障したりする場面を引き続き日常化する。 「三中あったか先生」内外共にPRしていく。